

# 問題

## 二〇二三年度 入学試験問題

### (三学部共通) 一般選抜 I期1日目

#### 国語

時間 五〇分

#### 注意事項

- 一. 試験開始の「合図」があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
- 二. 「受験票」は、机の上の受験番号票と並べて置いてください。
- 三. 試験開始・試験終了は、試験監督者の「始め」、「止め」の合図に従ってください。
- 四. この問題冊子のページおよび解答科目は、左の表のとおりです。

科目	問題ページ	備考
国語	1～12	

- 五. 解答用紙が別にあります。
- 六. 「始め」の合図後直ちに、解答用紙に受験番号のみを記入してください。
- 七. 試験室に入室してから試験終了までは退室を認めません。
- 八. 試験中に質問のある場合、または気分が悪くなった場合等には、手を挙げて監督者の指示に従ってください。
- 九. 「止め」の合図後直ちに、筆記を止めてください。
- 十. 退室は監督者の指示に従ってください。「受験票」、「問題冊子」は持ち帰ってください。

〔I〕 次の文章を読んで、問いに答えなさい。なお、字数指定のある問いでは、句読点・記号も字数に数える。

このごろの若い人は手紙を書かない、そういつて年輩の人たちが心配する。その年輩の人たちにしても、電話の方が便利だから、つつい、電話で用をたしてしまいがちだから、えらそうな口はきけない。

電話は便利だというが、それはかける方の都合である。かけられる側にしてみれば、とんでもないこと。ときをかまわずベルがなる。けたたましい音がすれば、放つてはおかれない。何事ならんとかけつけてみれば、〃〃本を送っていただいてありがとうございます〃〃というだけのあいさつ。それくらいのことならばがき一本くれた方がどれだけ助かるかしれない。

はがきを書くより電話の方がいいねいだと<sup>①</sup>カンチガイしている唐変木もいるらしいから物騒である。はがきなら、あとでゆっくり読むことができる。味わいのある文面なら、何度もくりかえして反芻<sup>はんすう</sup>することもできる。

急ぎの仕事をしていて、電話に呼び出され、セールスマンの長々しい口上をきかされたりすると、腹が立って、つい失礼な口のひとつもききたくなる。電話の乱用は現代の病気のひとつで、このために、お互いどれだけあわただしい気持ちにさせられているかしれない。

そこへ行くと、<sup>②</sup>ユウビンは控え目である。見たくなければ、そのまま放っておかれる。おもしろそうなのはすぐ開いてすぐ返事を書く。(1)なのがうれしい。

十八、九世紀のヨーロッパの貴族や文人はひまさえあれば手紙を書いていたのではないかと思われる。それが長い手紙だ。中には、<sup>注一</sup>こちたき議論が出てきたりする。われわれのいう手紙とどこか違っている。日本人の手紙が主情的だとするなら、<sup>(a)</sup>かれらの書簡はどうも事務的、あるいは、主知的傾向がつよい。

詩人キーツは自分の芸術観の大略を、知友に宛てた書簡の中で展開している。思想をのべる形式として手紙が発達したと考えられる。ちよいと手紙一本書く、というようなわけにはいかない。<sup>(b)</sup>いわば作品である。

われわれの国には思想的書簡の伝統はないと言つてよい。例外はあるにしても、手紙はいわゆる平信を<sup>③</sup>建前としている。知っている人同士のあいさつが主となる。未知の人に宛てる手紙には、突然お手紙を差し上げる失礼をおゆるし下されたく、といった、外国人には理解できない文句を添えることになっている。気心の知れている相手に向かつて、くたぐたくものを言うのは野暮になる。さらりと簡潔に、含みのある文章を書くのが作法である。

言うまでもないことだが、外国語の手紙には句読点がついている。われわれが毛筆で巻紙に

書く手紙には句点だの読点だのをつけない。印刷した案内状にしても句読点をつけないのが正式だという人はいまだにすくなくない。

(c) 日本にはもともと句読点がなかった。だいたい、句読法は読みやすいように、読み誤られることがないようにという配慮に出るものである。読む人の理解力なり教養に対する不安を④ ナイゾウしている。本当に相手を尊敬していれば、こうした失礼な心配はしないはずで、句読点など、なくもがな、となる。

手紙に段落をつけるかどうか。これも微妙な問題で、若い人の手紙には段落がついていることが多く、そういう手紙はまたたいてい長文で、ヨーロッパ風に思想的であろうとしているようである。短い文面には段落のない方がおもしろい。しいて言えば、センテンスのひとつひとつが段落に当たると。

こう考えてみると、われわれがもつとも手紙らしい手紙と感じているものの表現は⑤ 詩歌に通じる性格のものであることに思い至る。俳句にも短歌にも、句読点も段落もない。

(d) 長文の手紙は、非日本的であつて、このごろ、そういう手紙を書くこととする世代があらわれていることは注目に値する。ただ、そういう手紙を書くには何より時間が必要である。時間がない。長電話で代用する。

いまの人に十八世紀の貴族のような手紙を書けと言っても無理である。忙しいのなら、忙しいなりに、形式を考えなくてはうそだ。われわれの国は短詩型文学のすばらしい伝統をもっているが、短小型書簡についても、ほかの国にないすぐれた感覚と形式を期待してよいように思われる。

手紙はなるべく短く書くようにしたい。それでいて含蓄の深い手紙でなければおもしろくない。その短い便りの極致ははがきで、すぐれたはがきには俳味<sup>注三</sup>がただよっているものだ。

ローマのシーザーが友人に言い送ったという、来た、見た、勝った (veni, vidi, vici) は簡潔という点では、<sup>(e)</sup> 「筆啓上、火の用心、おせん泣かすな、馬肥やせ」にもまさるが、共通しているのは、三つのことをのべている点である。

どんなに短いのがいいと言っても、ひとつのことしか伝えていないのでうら淋<sup>さび</sup>しい。味わいも乏しくなる。

はがきなどでは用件だけ伝えればよいわけだが、その前に、ちよつと、前付けを置く。そして、用向きをのべる。そのあと、ひとこと他事にふれて⑥ 風情を添えるのが普通である。それぞれの部分の關係は、不即不離、つながりがないようで、どこかでつながっている。<sup>(f)</sup> そういうた書き方が文通を生き生きさせる。俳句の心もこういう手紙を書くときの心理と無縁ではないように思われる。

世の中が殺風景になればなるほど、うるおいというか風流を求める心もつよくなるらしい。

このごろ芸ごとや短歌、俳句を（ 2 ）人がふえているのは、そのあらわれと見られないこともない。（ 3 ）、手紙を書く人がすくないとするなら、手紙を実用の義務と感じているからであって、生活の中の詩と考えるゆとりがあるなら、手紙を放っておくという手はあるまい。古くとも、俳句はあいさつの心をもっている。はがきにも俳句の心に通じるところがあっても不思議ではない。いいはがきが書けたら生活の詩人である。

（外山滋比古『日本語は泣いている 新編 ことばの作法』より。ただし、一部改変してある。）

注一 唐麥木——気の利かない人のこと。

注二 こちたき——はなはだ煩わしい。

注三 俳味——俳諧的な味わい。

問一 傍線①・②・④のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線③・⑤・⑥の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問三 空欄（ 1 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 出し手本位    イ 受け手本位    ウ 出し手優位    エ 受け手優位  
オ 受け手各位

問四 傍線(a)「かれら」とはだれか、文章中から十八字の語句を探し、記入しなさい。

問五 傍線(b)「いわば作品である」とあるが、その理由として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 十八、九世紀のヨーロッパの貴族や文人はひまさえあれば手紙を書いていたから。  
イ ヨーロッパ人の手紙は、主情的であり、かつ事務的、主知的傾向がつよいから。  
ウ 詩人キーツが自分の芸術観の大略を、知友に宛てた書簡の中で展開しているから。  
エ ヨーロッパでは、思想をのべる形式として手紙が発達したと考えられるから。  
オ ヨーロッパでは、手紙はいわゆる平信を建前としており、知っている人同士のあいさつが主となるから。

問六 傍線(c)「日本にはもともと句読点がなかった」理由を筆者はどのように考えているか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 読みやすいように、読み誤られることがないようにという配慮をしなくても、もともと読みやすい文章であったから。

イ 句読点をつけると、かえって読みにくくなってしまおうし、正式な文書の書き方になつていなくて相手に失礼だと考えたから。

ウ 読み手の理解力や教養を信頼しており、句読点がなくても読むことに苦勞せず、また読み誤られることもないと思っていたから。

エ 毛筆で書く手紙は、外国の手紙と違って、句読点をつけるとかえって煩わしくなるし、見た目もよくないから。

オ 句読点がないことで、読みにくかったり読み誤ったりしたとしても、それは相手の理解力や教養の問題なので書き手には関係ないことだと考えていたから。

問七 傍線(d)「長文の手紙は、非日本的であつて」とあるが、その理由として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 日本の貴族や文人は思想をのべるような長い手紙を書く伝統を嫌ったから。

イ 日本の手紙の伝統は主情的ではなく、事務的あるいは主知的傾向がつよいから。

ウ 日本では、短歌や俳句のような短詩型文学や短小型書簡の伝統が生きているから。

エ 日本人は昔もいまも忙しくて時間がなく、手紙を書くにしても長文は書かないから。

オ 日本の手紙は句読点や段落を用いないので、長文の手紙は書きづらかったから。

(次のページに続きます)

問八 傍線(e)「一筆啓上」の意味や用法について最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 「急いで書きしたためた」という意味で、目下の相手に対する手紙の書き出しに用いられた。

イ 「簡単に申しあげます」という意味で、男性が普通の手紙を書くときの書き出しに使われた。

ウ 「ひと言お礼申し上げます」という意味で、目上の相手に対する手紙の書き出しに用いられた。

エ 「粗末な筆で書き記します」という意味で、女性が男性に送る恋文などの書き出しに用いられた。

オ 「短く簡潔にご連絡します」という意味で、緊急の連絡をする場合などの書き出しに使われた。

問九 傍線(f)「そういった書き方が文通を生き生きさせる」のはなぜか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 用件だけを伝えればよいはがきであるが、それだけではつまらないと思って前後に風情ある言葉をいろいろと並べるから。

イ 前書きのあとに、用件をのべ、そのあとにひとこと他事を書くという、手紙やはがきの書き方をきちんと守っているから。

ウ 不即不離というとおり自分と文通相手が即座には別れないで、はがきなどで文通をすると二人とも生き生きとしてくるから。

エ はがきのそれぞれの部分の不即不離の関係が、俳句の五・七・五の各部分の相互関係のように心に響くから。

オ それぞれの部分がつながりがないようであるがどこかでつながっている微妙な関係にあり、それはまるで俳句を詠むかのようにであるから。

問十 空欄(2)に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア たしなむ    イ いとおしむ    ウ いつくしむ    エ わきまえる  
オ なつかしむ

問十一 空欄（ 3 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア そうだから      イ それはさておき      ウ そうだとすれば      エ それにつれて  
オ それなのに

問十二 この文章の文体的な特徴として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 学術的な語句と論理的な構成で、常に読者を説得しながら進む。  
イ 短い文を重ね、軽妙なテンポで筆者の思いを積みかけながら進む。  
ウ ゆったりとした流れの文を続け、やさしく語り掛けるように進む。  
エ 詩的で幻想的な雰囲気をもった文を並べ、絵画を描くように進む。  
オ 明るい雰囲気で読者を楽しませつつ、具体的な説明を重ねて進む。

〔Ⅱ〕 次の文章を読んで、問いに答えなさい。なお、字数指定のある問いでは、句読点・記号も字数に数える。

教養は幸運なときには飾りであるが、不運のなかにあつては命綱となる。

このことばは、古代ギリシアの偉大な哲学者、アリストテレスが語ったと、ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』は伝えている。

〔a〕「教養」と訳したのは、ギリシア語の「パイデイア」ということばである。「パイデイア」は、「パイス」ということばからの派生語で、「パイス」は「子ども」である。「パイデイア」は「子どもを育てること」であるから、「教育」という意味をもつ。ただ、古代ギリシアの人びとにとって「パイデイア」は、教育制度や学校のシステムのなかで「教え込む」教育、子どもからみれば「教え込まれる」教育ではなく、人間の自由な精神が（１）的に学び、みずから身につける能力を意味した。「教え込む・教え込まれる強制的な教育」ではなく、「自由な人間が自ら身につけ学ぶ教養」を意味したのである。「飾り」となり「命綱」となる教養は、強制的に仕込まれたものではなく、人間の内面から輝く飾りであり、危機のときには自分の意思でそこから脱出しようとする（１）性とともにあるからである。そこで、「教育」というより「教養」のほうがふさわしい訳語である。

ただ、この本で論じることになるが、現代においても「教養」と「教育」とは微妙な関係のなかにある。ここではひとまず、この本で論じる「教養」は、自ら身につけるといふ（１）性にもとづく学びであり、そのように、主体的に学ばれて身についたものが教養と考えておこう。

さて、「飾り」というのは、もとのギリシア語でいうと、「コスモス」である。「コスモス」には「宇宙」という意味と「秩序」<sup>①</sup>という意味がある。また、「飾り」も意味する。「コスメティックス」といえば、化粧品である。人を美しく飾るもの、という意味である。

人びとが幸運な人生のうちにあるときには、教養は、人の精神を秩序づける。その人柄を美しく飾る。ただ、人生は、自然法則に支配される自然現象と異なつて、幸運と不運のうちにある。同じ人間として生まれながら、<sup>②</sup>フユウな家庭に生まれた子どもと<sup>③</sup>貧困な家庭に生まれた子どもでは、「運不運」が違うとわたしたちは言う。わたしたちは、自分の人生の「生まれ」を選択することはできない。

わたしたち人間が生きているということは、この地球上に命を与えられ、その命を維持していくということの意味している。生まれるということは、命を与えられるということである。与えられるということは受け身である。わたしたちは自らの誕生を選択することはできないからで



ある。

他方、わたしたちは命をつなぐために、たくさんの方を選択する。「選択する」ということは、「選択肢をもつ」ということ、さらに、「選択することができる」ということも意味している。複数の選択肢のなから選択することができるということは、選択の自由をもつということである。選択の自由があればこそ、わたしたちは、複数の選択肢から自らの意思でどれか一つを選ぶことができる。選択の存在こそ人間が自由であることの④「コンカン」に位置しているのである。

ただ、選択が望みの結果をもたらすかどうかは、選択の時点で分かっているわけではない。わたしたちは、<sup>(b)</sup>「選択を誤る」こともある。この場合の「誤る」は、数学の解答を誤るという意味ではない。正しい答えを出せなかったということでは<sup>(c)</sup>ない。わたしたちは「正しい選択」というが、これは、数学の答えのような「正しさ」ではない。選択には、「よりよい選択」と「より悪い選択」、「どちらともつか<sup>(d)</sup>ない選択」がある。よりよい選択とは、わたしたちの願望の実現をもたらす選択、いわば幸福な状況をもたらす選択であり、そうでない選択が誤った選択、不幸をもたらす選択が悪い選択である。

(2) よい選択をしたと思っても、選択の状況が変化するなかで不運が生じることもある。順調に進んでいた仕事我突然の地震で行き詰まってしまうこともある。わたしたちは、こういう状況を運が悪いとか、不運だとかいう。

選択を誤ることで、あるいは、不運に見舞われることで、わたしたちは困難な状況に陥る。困難な状況に陥ってしまうことの⑤「分岐点」となった選択のことを「選択を間違った」とか、「選択が正しくなかった」、あるいは「選択はよかったが、運が悪かった」というのである。たしかに「誤った選択」「正しくなかった選択」は回避したい。不運な出来事に出会うことも喜ばしいことではない。が、そういう選択をすること、<sup>(e)</sup>「そのような状況を生きていくことができることもまた、人間が自由であるということに含まれている」。

ここで命のように、「与えられているもの」を「所与」と呼ぶことにしよう。わたしたちは、与えられた命のもので、すなわち、所与としての人生のうちにあつて、選択する自由を与えられている。

所与と選択とが人間が存在するということの根本的な条件である。ただし、人生は、所与と選択だけによって成り立っているわけではない。人生には、所与でもなく、選択でもない広大な領域が広がっている。<sup>(f)</sup>「遭遇」という領域である。

わたしたちは、人生のなかで、さまざまな人びとや出来事に出会う。遭遇する。この遭遇もまた「所与としての生きていること」と切っても切れない関係にある。所与をスタートとして

わたしたちの人生は進んでいくのであるが、そのなかでわたしたちはそれぞれにさまざまな人や出来事と出会うからである。しかし遭遇は所与ではない。選択でもない。

<sup>(g)</sup>遭遇は選択ではないが、さまざまな遭遇は、他方でわたしたちにさまざまな選択肢を用意してくれる。<sup>(h)</sup>人生の豊かさは、この所与と遭遇によって用意される選択のなかにある。いろいろな人と出会い、いろいろな出来事に出会う。人との遭遇、出来事との遭遇によってさらにさまざまな選択肢が現れてくる。そのなかの選択によって人生は変化してゆく。選択によって出会うさまざまな人や出来事や風景が人生の彩りとなる。

ただ、遭遇もまた、時として、さまざまな困難な状況をもたらす。自然災害との遭遇もあり、危害を及ぼす人間との遭遇もある。そうした遭遇で迫られる選択に失敗すれば、その結果は不幸な結果になることもある。死に至ることもある。

社会に秩序が存在し、平和を維持している時代にわたしたちが生まれたとすれば、そのような状況もわたしたちの「所与」ということができる。そのような時代であれば、人びとは心安らかに暮らすことができるようにみえる。

しかし、そのような時代にも、人は時として困難な状況に遭遇する。戦争がなくても、人びとの間には対立や<sup>(6)</sup>フンソウがあつて、ときには暴力に至る。DV（ドメスティック・バイオレンス）といわれる家庭内暴力や「いじめ」もある。

命の危機に遭遇することは不幸なことであるが、（3）。むしろ、さまざまな困難を克服すること、そのような克服を実現するための賢い選択を行うことこそが人生を（4）する。困難な状況にあつてこそ、人間は賢い選択をすることができるからである。

（桑子敏雄『何のための「教養」か』より。ただし、一部改変してある。）

注 この本——この文章が収められている本『何のための「教養」か』のこと。

問一 傍線②・④・⑥のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線①・③・⑤の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問三 傍線(a)『教養』と訳した「理由として最も適するものをア〜オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 子どもだけでなく生涯にわたって学び続けるものを表したかったから。
- イ 教え込まれる知識だけでは生きていけないことを表したかったから。
- ウ 自由な人間が自ら身につけ学んで得る能力のことを表したかったから。
- エ 人は美しく飾って幸福になることが大切だということを表したかったから。
- オ 危機のときの命綱を学校で教えるべきだということを表したかったから。

問四 空欄(1)〜三か所には同じ語が入る。(1)〜に最も適するものをア〜オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 自発    イ 自在    ウ 自治    エ 自立    オ 自律

問五 傍線(b)「選択を誤る」とはということか、最も適するものをア〜オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 数学の正答のようなものを得ようとしてもできないこと。
- イ 結果として困難な状況に陥ってしまった選択をしたこと。
- ウ 不運な出来事に出会ってどうにもならなくなること。
- エ よりよい選択を得ようとしなくて諦めてしまうこと。
- オ あえて困難な状況を生きようという選択をすること。

問六 傍線(c)・(d)の「ない」の品詞の組み合わせとして最も適するものをア〜オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア (c) 助動詞                    (d) 形容動詞
- イ (c) 形容動詞                (d) 助動詞
- ウ (c) 助動詞                    (d) 形容詞
- エ (c) 形容詞                    (d) 形容動詞
- オ (c) 形容詞                    (d) 助動詞

問七 空欄(2)〜に最も適するものをア〜オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア つまり    イ ゆえに    ウ たとえば    エ さらに    オ ところで

問八 傍線(e)「そのような状況」の説明として最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 不運な出来事に出会うというような状況
- イ 誤った選択、正しくなかった選択をするような状況
- ウ 誤った選択、正しくなかった選択を回避するような状況
- エ 喜ばしくないことを選択してしまうような状況
- オ 困難を回避できたことを喜ぶような状況

問九 傍線(f)「遭遇」とはどういうことか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 出会って驚くこと
- イ たびたび出会うこと
- ウ 出会い大切にすること
- エ 不意に出会うこと
- オ 人生に一度しかない出会いのこと

問十 傍線(g)「遭遇は選択ではない」とあるが、「遭遇」と「選択」はどのような関係になるものか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア さまざまな遭遇によって変化する人生であるが、それに加えて選択肢を多くすれば、人生に彩りを加えることができる。
- イ 遭遇と選択とは切っても切れない関係にあり、一体化してこれから出会う人や出来事や風景の彩りとなるものである。
- ウ 自分の自由な意思で決定する選択と異なり、遭遇はいつもさまざまな困難をもたらして人生を不幸にしてしまう。
- エ 選択を重ねながら人生は進んでいくのだが、さまざまな遭遇によって人生が困難な状況に陥ってしまうものだ。
- オ 遭遇は主体的に選択したものではないが、遭遇によってさまざまな選択肢が現れ、主体的に選択する機会を得る。

問十一 傍線(h)「人生の豊かさは、この所与と遭遇によって用意される選択のなかにある」とあるが、このことを端的に言い換えている部分を文章中から十五字で探し、記入しなさい。

問十二 空欄（ 3 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 幸運に恵まれてこそよい人生というものである
- イ 幸運を選択することが人生のよさである
- ウ 幸運に恵まれるだけがよい人生ではない
- エ 幸運を追い求め続けてこそよい人生である
- オ 幸運に恵まれてなくても生きていけばよい

問十三 空欄（ 4 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 優雅に
- イ 豊かに
- ウ 華やかに
- エ 厳かに
- オ 爽やかに



〔Ⅱ〕

国語

解答用紙二

問十三	問十二	問十一	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
											①	②
											③	④
											⑤	⑥

受験番号	
------	--

